

雲の上のまち



広報

# ゆずばら



栲原学園入学式

栲原町一般会計当初予算の状況 <P2>

平成31年度施政方針<P3~>

栲原町の組織機構及び職員配置表<P11~>

春の人事異動<P14>

三笑会～第2回障がい者福祉大会<P19>

... etc...

**4** **2019**  
〈平成31年〉  
No.730  
月号

●世帯数/1,785 (2月末)  
1,770 (3月末)  
●人口/3,520 (2月末)  
3,497 (3月末)  
○出生… 1 ○死亡… 6  
○転入等… 20 ○転出等… 38



# 平成31年度施政方針



## はじめに

平成最後の年となる今年、これまで30年間にわたって我が国の象徴として、国民の安寧を念じ公務に携わってこられた今上天皇陛下に心から感謝の誠を捧げるところでございます。

平成5年の高知県庁幸啓の際には、県立美術館において津野山神楽を奉納させていただく機会を頂戴したことが、つい先日のように思い起こされます。神楽保存会の会員に一言ずつお声をおかけいただいたことは忘れがたい思い出でございます。

また、被災地をはじめ戦禍に苦しんだ土地を訪ねられ、被災者やご遺族の皆さんに、腰を折り膝をつき目線を合わせられて、お声掛けされるお姿に、多くの国民が勇気づけられたものと思われまます。

こうした、国民の悲しみに向き合い、喜びを分かち合い、同じ目

線で過ごされてきた今上天皇陛下が退位され、新たな時代の幕開けとなる記念すべき年度を迎える今、世の中は、AI（人工知能）や、すべてのものがインターネットでつながるといふIoTなど時勢の変化に速やかに対応することの重要性や、昨年、日本各地で頻発した自然災害をはじめとする近年の気象状況の変化へ備えることの重要性が一層増してきております。そうした中ではありますが、引き続き「町民の皆様一人ひとりがそれぞれの生きがいや幸福感を感じながら、安心して安全に暮らせる町」づくりを主眼を置き、町民の皆様をはじめ多様な関係者の方々と信頼しあい、力を合わせ和の心を持って町政に臨んでまいれる所存でございます。

## 町民それぞれが感じる 幸福度の向上に挑戦する年

私は、昨年1月に自らの不注意により大けがをし、2カ月間の入院生活を送りました。梶原町長と

して町政をおあずかりすることとなった矢先にこのような事態を招いてしまいましたことは誠に痛恨の出来事でしたが、その中で改めて健康のありがたさや平穏な日々暮らしの大切さを確認させていただきました。

この経験を通じて、改めて「町民の皆さんがそれぞれの生きがいや幸福感を感じながら、安心して安全に暮らすことのできる町」を目指して取り組んでいきたいと考えているところでございます。

そして未来に向けて「子々孫々に幸せな暮らしをつなげる理想郷ゆすはら」づくりを目指し、「世界の課題解決先進地域」として経済を再生し、自然と共にある豊かな町民生活を実現することにより、穏やかな日々の暮らしの中で町民の皆さんの笑顔があふれ、この町での暮らしに自信と誇りを持つて、そんな町づくりに取り組んでまいりたいと考えております。

そして、訪れた人が町民の皆さんの暮らしぶりや笑顔に接し、「また来たい！」「ここに住みたい！」「この町で子どもを育てたい！」、そんな風を感じていただき、様々な取り組みに応援いただける町となり、そうしたことから町民が感

じる様々な幸福度の向上に挑戦をしていきたいと考えております。

## ないものはない あるモノを磨く

この町は、先人が営々と積み重ねてこられた努力によって、大きく様変わりいたしました。高知市や松山市まで1時間半で到着できる町の中心部は、すっきりとした広々とした通りが整備され、地元の方がそれぞれ花を植えていただいたり、掃き清めていただいたりしているおかげで気持ちの良い空間が広がっております。初めてお越しいただく方には驚きを、何度もお越しいただく方には心の安らぎを感じていただいていると思っております。

ここには、1100年前から様々な思いを持った先人が守ってこられた土地柄と文化が伝えられており、都会の文明の中では決して味わうことのできないものが、今も数多く残されているように思っています。

こうした宝を発見し、磨きをかけていくことで、町民の皆さんが改めて自信と誇りを持ち、それぞれの生きがいや幸福感を感じ、さわやかな風に吹かれながら笑顔で

過ごすことができる文化を築いていきたいと考えています。そして、この町でしか味わうことのできない何かを味わうために国内外の多くの皆さんにお越しいただき、経済的な好循環に結び付けていくこと、また、そのお金が町内を回っていくことで町内経済が活性化し、ぜひたくではなくても豊かな暮らしが実現することを目指していきたいと考えております。

また、先ほど申し上げましたように社会が変化する一方、山林所有者の森林管理の責務を明確化し、適正な森林管理を図ろうとする森林管理法の制定や森林環境税の創設などへの対応、また、本町の魅力を広く発信し、経済の活性化に結び付けるための取り組みなど、さまざまな分野に対応するためには、人材の育成が不可欠となっております。国、県やパートナー企業、大学など教育機関の支援もいただきながら、次につながる人材の育成に取り組んでまいります。

## 進歩から進化（新化、深化）へ

就任1年目は、できるだけ多くの会議に出席し、新たな出会いや発見をさせていただきました。先

ほど申し上げたように人工知能やビッグデータを活用した社会は驚くほどの勢いで進んでおります。こうした社会の動きを感じながら「井の中の蛙になつてはいけない」、様々な分野に高くアンテナを掲げて町にフィードバックしていかねばならないと強く感じたと

ころでございます。そうした情報を基とし、安全な町づくりを目指してまいります。

また、これまで長年にわたり本町の主要な施設として活用しておりました太郎川公園の施設について、老朽化による更新の時期を迎えていることから、新たなプロモーションを進めていく年としていきたいと考えております。

さらに、本年は、まち・ひと・しごと創生総合戦略の最終年度でもあり、この総合戦略の上位計画として第7次総合振興計画を1年前倒して策定するなど基本的な計画の見直しの年となっておりますが、安心して暮らせる町づくりのための防災対策や産業振興に向けて喫緊の課題である一次産業をはじめとする産業振興への取り組み、若者の地域愛を育み、やる気を支援するための取り組みなど将来につながるための取り組みについて

は並行して取り組んでまいります。

## 国・県の動き

国政では、平成31年度一般会計予算、総額101兆4千571億円が現在審議されています。この、一般会計歳出予算のポイントとしては、全世代型の社会保障制度への転換に向け、消費税増収分を活用した幼児教育の無償化と社会保障の充実を図る一方、消費税引き上げによる経済への影響の平準化に向けて、ポイント還元などと共に国土強靱化対策を加えた施策を総動員した予算となっております。財政の健全化の面では、「新経済・財政再生計画」のもと、歳出改革の取り組みを継続しながら国債発行額を7年連続で縮減し、一般会計のプライマリーバランスも改善する予算となっております。本町の財源を大きく左右する地方交付税等交付金については、景気回復を背景に平成31年度の国税の増収を見込んで前年度比30%の増額となっております。

一方、県政では、国の「防災・減災、国土強靱化のための3カ年緊急対策」や豪雨災害等の被害への対応により、平成31年度一般会

計当初予算額は、前年度当初予算を22%、98億円上回る4千607億円となっております。中では5つの基本政策と3つの横断的な政策の更なるバージョンアップを図り、県勢浮揚に向けて実効性の高い施策をスピード感をもって展開する一方、スクラップアンドビルドの徹底や、国の有利な財源を活用することにより、積極型の予算を編成しながらも、今後の安定的な財政運営の見通しを確保し、11年連続の積極予算となっております。中でも投資的経費は平成16年度以来15年ぶりの規模となり、1千71億円を計上しております。また、義務的経費のうち人件費と公債費を除いた額2千807億円は、平成14年度以来、17年ぶりの規模となっております。5つの基本政策とは経済の活性化（第3期産業振興計画の推進）、日本一の健康長寿県づくり、教育の充実と子育て支援、南海トラフ地震対策の抜本強化・加速化及びインフラの充実と有効活用であり、それに横断的にかかわる政策として、「中山間対策の充実・強化」、「少子化対策の充実・強化と女性の活躍の場の拡大」、「文化芸術とスポーツの振興」の三つの政策を引き続き推進すると

し、国の補正に伴う2月補正も含めた予算ベースでは、前年度比2.5%増の4千790億円となっております。

さて、平成31年度の梶原町の予算は、こうした国、県の動向を踏まえたうえで、本町の課題解決に向けて、最終年度となった、まち・ひと・しごと創生総合戦略の成果を着実に上げていかなければなりません。

「災害に強い町づくり」や「福祉施策の充実」「産業の振興」「移住・定住対策」「教育環境の整備・人づくり」を重点に六つの社会づくりを着実に推進するために、一般会計では、前年度比7%増の66億15,000千円の予算となり、11特別会計を合計いたしますと単純合計で前年度比4.9%増の97億88,000千円の予算規模となりました。

その内容につきまして、六つの目指す社会ごとに申しあげます。

**総合振興計画に基づき  
目指す六つの社会**

**「梶原ならではの保健・医療・福祉が充実した社会づくり」**  
**「健康」**

**○地域福祉の充実**

本町は、これまで部落や区の制度を生かし、住民の皆さんが協力し合い助け合いながら生活を営んできました。人口が減少し少子高齢化が進んだ現在でも、住み慣れた地域で生活できるのは、この体制を守り受け継いでいるからだと思っております。

しかし一方では、自分が困っていても我慢をして他人に迷惑をかけるないように生活するという住民性もあり、自立している地域もありますが、実際には支え合いまで至っていないケースがあり、これまで取り組んできた方法だけでは行政サービスが行き届かない場合もあると考えております。

そのため、どのようなことで困っておられるのか、不安を感じておられるのかを察知するため、社会福祉協議会の地域福祉コーディネーターが住民の皆さんと対話しながら地域の特性を把握し、行政サービスが不足している部分や地域の問題点を洗い出し解決へ導いていく支援を行っております。地域の文化を再認識し、住民の意識をまとめていくようなこととであり、まだまだ道半ばで時間がかかりますが、今後においても

引き続き、個人や地域でできることはないか、新たな行政サービスはどのようなものが必要なのかを住民の皆さんと共に考え、関係機関や民間企業、集落活動センターや各種団体の皆様に協力を得ながら、住み慣れた地域で安心して暮らしていけるよう取り組んでまいります。

**○地域包括ケアシステムの推進**

住み慣れた地域や自宅に住み続けられる仕組みとして、病院、支援センターと関係機関が情報共有を図り、退院後の生活に困らないよう個別に支援方法を検討してきました。その中で課題となっておりました要介護1、2の方が入所できる介護施設が町内にないことにより町外の施設に転出せざるを得ない状況を解消するために平成30年度より複合福祉施設を開設し、ケアハウスYURURIを昨年4月にオープンしました。当初の計画では要介護3以上になれば特別養護老人ホーム梶原ふじの家に繋いでいく中間的な役割を果たす施設として設置しておりましたが、特養に空きがなく待機者がいる状況であるため、現在スムーズに移行できていない状況であります。



複合福祉施設 YURURI ゆすはら

そのため要介護3以上になられた場合でもケアハウスの待機者が増えてきております。今年度は、この状況を解消していくため関係機関と知恵を出し合いながら検討してまいります。

**○高齢者等の移動支援**

本町の高齢者は、若々しく地域でも様々な役割を持ち、若者の手本として活躍されておられます。体力や気力は若者よりも高く元気で生活しておられますが、身体能力については、残念なことに年齢を重ねるごとに衰えることも事実であります。

そうした中で、特に車の運転については注意をいただかなければならない状況であります。中

山間地域で生活する上で必要不可欠な移動手段のひとつであり、可能な限りご自身で運転され移動されることが望ましいこととは思いますが、誰にとっても使い勝手のよい、利便性の高い移動手段について、先進地の視察研修も含めて、ふつとわーく協議会の中で検討してまいります。

○健康づくり

さらに、健康づくりを進めていく上で今一度クローズアップしなければならぬのが安心して健康的に生活できる住まいの環境を整えることです。特に本町の冬は厳しくトイレや風呂が外にある住宅は寒暖の差が激しくヒートショックを起こしやすいとなります。このようなことを少なくしていくために寒暖差の少ないトイレや風呂に住宅改造をした世帯に対して補助制度を設け疾病予防につなげていきます。

この他にも糖尿病の重症化予防や健全な食生活の習慣など健康づくりへつながる事業を重点的に行い、住民一人ひとりが自分の健康は自分で守るという意識をしっかりと認識してもらい、健康で幸せな生活がおくれるよう支援し、健康なまちづくりを進めてまいります。

【高齢化と過疎地域でも災害に強い社会づくり】  
【環境】

昨年、本町でも猛威を振るった7月西日本豪雨をはじめ、日本各地で頻発する自然災害は、近年甚大化が増してきております。そうした状況の中、梶原で安心して暮らし続けていくための災害に強い社会づくりへ向け、各施設や環境など社会基盤を安全で快適なものに整備していくことはもちろんでございますが、それだけではなく地域で支えあえる関係の構築も重要であり、自主防災組織を中心とした地域防災力の向上を目指してまいります。

特に、高齢化が進み若い人が少ない地域では、個人の力だけでは対応できない火災や南海トラフ地震など自然災害に対応できる地域社会の支援の仕組みが重要になっております。そのためにも、マンパワーの確保を始め、災害を防ぐ準備、災害発生状況の確実かつ正確な情報の伝達・収集、災害を最小限に抑える応急措置、そして被災後の復旧を早くする対策の5項目が欠かせない要素であると捉えて、自主防災組織と消防団及び各種団体と連

携し、ミニ講座や防災訓練と防災施設、備蓄品等の整備の充実、避難時の生活環境の整備に努めてまいります。また、地域で助かる命を助けていく仕組みとしてファーストレスポンドー隊の育成、整備を進めてまいります。

○命の道の整備

非日常ともいえる災害に備えることから、日常の質の向上を常に意識をしておかなければなりません。道路は、私たちが一生この梶原で生きるための最も重要な社会基盤であります。

その生きる手段であります国道197号「野越バイパス」の整備促進と国道439号下折渡及び鷹取から中平区間と町道佐渡鷹取線改築事業の早期完成に向けて、本年度も積極的に取り組んでまいります。

また、主要地方道城川梶原線宮野々工区、県道上郷梶原線下本村工区の整備促進を図りながら、未着手区間においては危険個所の改修に向けて要望活動に努めてまいります。

さらに、生活道である町道や農林道につきましても、六丁と松谷との間を結ぶ林業専用道「林道六

【暮らしの安定と産業の振興・発展した社会づくり】  
【産業・くらし】

安心して暮らせる産業の振興・発展は、本町の重要なテーマであります。

そのために、梶原町森林組合、梶原町商工会、高知県農業協同組合（梶原支所）をはじめ、町内の各種企業・団体との連携はもとより、「ゆすはら産業担い手育成塾」ともしっかりと連携し、人材育成をはじめ、生産から、加工、販売までのそれぞれの生きる仕組みづくりの確立に向かって積極的に支援してまいります。

○付加価値の高い農・畜・林等一次産業の振興

農業では、平成31年1月から津野山農業協同組合が高知県農業協同組合へと統合されました。町内の農業生産活動に影響がでないよ

う、県1JAとしてしっかり対応していただくことが重要となつてまいります。行政としても、その動向について確認し適正に対応してまいります。

さらに、町の新たな施策として、民間企業との協働によるワイン事業へ取り組むことにより、梶原の新たな特産品やお土産としての可能性を検討してまいります。

畜産については、一般社団法人津野山畜産公社の経営規模を拡大し、「カルスト牛」のブランド化や民間企業と連携した販売促進を行い、畜産農家の経営の安定化を目指してまいります。

林業においては、森林（もり）を生活基盤として、古くは津野経高公の梶原の起りから森林の恩恵を得、こころ豊かな町民の生活が営まれ、森林と水を始めた自然の恩恵を享受し共生し発展してきました。

豊かで住み良い町づくりを実現するためには、先人たちが育んだ豊かな森林資源を守り活用していくことが必要不可欠です。

森林づくり基本条例の基本理念に則り持続可能な森林づくりの実現に向けて担い手不足を始めとした林業の諸課題に向き合い対応す

ることが必要と考えております。

このため、本年度からは産業振興課に森林の文化創造推進室を立ち上げ、担い手育成を始め、本町の森林を伐つて植え、森林資源の循環が円滑にできる仕組みづくりや林業経営の安定を図るための支援体制を整備してまいります。

また、確実に推進していくため、環境先進企業であり梶原の森林づくりにご協力いただいております矢崎総業株式会社、森林づくりに知識と経験のある梶原町森林組合と共に未来に向けての森林づくりに取り組んでまいります。

この他、森林認証材である梶原産材の良さを広め、工務店や住宅建築会社へ積極的にPRを行い、町産材の需要拡大を図ることにより、梶原町の林業振興につなげてまいります。

○**商工観光産業の振興**

商工業・観光においては、県を挙げて取り組んできておりました「幕末維新博」が終了し、この2月から「リョーマの休日」自然&体験キャンペーンが始まりました。

これにともない、隈研吾氏設計の建築群を観光資源として磨き上げていくことといたします。



まるうど館

さらに、観光案内所としての「まろうど館」も機能強化・充実を図り、今後の梶原町の観光産業につなげていくために、商工会をはじめ関係機関と協議し、観光協会の設立に向けて検討してまいりたいと考えております。

また、そうした観光案内所としての充実と併せ、役場職員一人ひとりが来庁される方をあたたかくお迎えするという気持ちの醸成を図っていくために、これまで対応しておりました総合窓口を廃止し取り組んでまいりますので、ご理解をよろしくお願いいたします。

○**自然や環境に配慮したくらしの推進**

梶原の美しい自然、そして街並

みの景観に訪れていただく方々の気持ちも癒されております。その美しい街並みの演出には環境に配慮した町民の皆様の高い意識があると思っております。

その高い意識をもって「梶原町廃棄物減量等推進委員」の方々が活発に調査研究を行っていただいておりますゴミの分別と減量化に取り組んでまいります。

また、清流四十川を守り、その水質の保全を図るために、合併処理浄化槽のより一層の推進に努めてまいります。

さらに、環境モデル都市として、再生可能エネルギーの自給率活用100%に向けた取り組みも継続して行つてまいります。

【**自信あふれる梶原人を育てる教育の確立した社会づくり**】  
「教育」

次代を担う子どもたちが21世紀をたくましく生き抜く力を育むために、学校、家庭、地域、行政が役割分担を明確にしながら、基礎・基本を大切に、安全で安心して安定した生活のできる環境づくりと地域ぐるみの教育を推進します。

○**保幼小中高の一貫教育の推進**

梶原人を育てるために、子育て



カンガルーのおなか

支援の充実策として子どもたちが健やかに成長し、自立していく日まで、カンガルーのおなかの中のように安心できる、ホッとできる「地域子育て支援センター（カンガルーのおなか）」を図書館内に設置し、親子の居場所づくりや子育てを応援しております。また、平成30年度に「未就学児童」「小学児童」の保護者にアンケート調査を実施した結果を踏まえて、本年度は、梶原の実情に応じた「第2期子ども子育て支援事業計画」づくりに取り組んでまいります。子どもたちの主体的・対話的で深い学びの実現に向けて、ICTを効果的に活用してまいります。そ

のためにICT補助員を配置し、教員への意識改革と授業での活用方法のアドバイスをいただき効果的な取り組みにつなげてまいります。また、海外での生活体験と学びの機会を与えるために高幡広域事業により中学生カナダ研修及び実践的な研修プログラムとしてイギリス研修（プリストル・クリフトンカレッジ）、また、中学・高校生を対象とした海外の大学生と共に過ごす、サマーキャンプを実施し、国際的に通用する会話力身に付けた人材の育成に努めてまいります。

さらに、発達障害をはじめ特別支援児童への支援制度の充実を図り、町単独の教員・支援員を配置し、学校と児童生徒が、落ち着いて学習できる環境づくりに努めてまいります。

そして、児童生徒の安心安全な食の確保や食育のために平成29年度から基本設計や実施設計に取り組んでまいりました梶原学園の給食棟につきましては、いよいよ本年度は、建築工事に着手してまいります。

また、野球部をはじめ部活動の活躍や確実に力を付けてきている学習力によって、その魅力が県内

外へ広く知れ渡ってきた梶原高等学校については、海外留学支援や寄宿舎支援など支援体制を強化すると同時に、新たな教育振興施設整備事業費交付金を活用し、高等学校を核とした地域の教育力向上及び活性化として、地域外から梶原高等学校に入学する生徒のほか、移住者の受入れ施設として、交流の場や学び、健康づくりの場を兼ね備えた複合的な居住施設「生涯学習交流施設」の建設に向けて取り組んでまいります。

○人と人がつながり楽しく学ぶ場づくりの推進

昨年5月にオープンした町立図書館「雲の上の図書館」が、本（情報）と人をつなぎ、町民の皆様を知を育む場としてはもとより、人と人がつながりコミュニケーションが活発する場として、静と動の両面で、広く「雲の上の図書館」を活用した活動を推進してまいります。

さらに、高知県全域で展開する「リョーマの休日」自然&体験キャンプと連携をした「第8回龍馬脱藩マラソン大会」「神楽大会」の開催や健康づくりと体力増進を住民自らが主体的に進めるために、「雲の上のスポーツクラブ」の種目



神楽大会のようす

の充実など生涯スポーツの推進に取り組んでまいります。

【人の尊厳が守られ「絆」を大切に作る社会づくり】

○梶原町まち・ひと・しごと創生総合戦略「小さな拠点ゆすはらづくり」

梶原町まち・ひと・しごと創生総合戦略は最終年度を迎えることとなります。5年間の成果を意識しながら町内外の方々ともちづくりのキーワードである「絆」の良き面をさらに磨き「自立」する地域づくりに取り組んでまいります。

また、これまでの効果検証を基に第2期梶原町まち・ひと・しごと創生総合戦略の策定と併せて、本町の最上位計画である梶原町総



合振興計画（平成23年度～平成32年度）との整合性を図るため、1年前倒しして、第7次梶原町総合振興計画の策定を進めてまいりたいと考えております。

さらに、「れんけいこうち広域都市圏」の連携事業により、高知市が有する大きなマーケット機能を活用することで、まち・ひと・しごと創生総合戦略の目的達成と、さらなる進展に向けて高知市との連携を密にし、関係性を広げてまいりたいと考えております。

その一つ目の「人と人の絆を大切にすまち」づくりについては、心と体の健康に加え様々な安心感を感じられる場はもちろん、人と人、人とモノをつなぐ場、交わる場として、「新しい道の駅ウエルネスゆすはら」の実現に向けて様々な方々との意見交換を行うなどしっかりと検討してまいりたいと考えております。

二つ目「支え合う集落活動センター」との連携づくりについては、本町には、全国的にもまれな区長を中心とする区制が生みだされ、これまで守り継がれてまいりました。それぞれの独自性を生かして

知恵を発揮することで各区が発展を遂げてきたところであります。この制度は、梶原町の宝の一つであると考えるとところであり、その各区を中心とした集落活動センターと連携をとりながら、さらなる進化をとげ、素晴らしい住民自治の仕組みが形成できるように支援してまいります。具体的には、

各集落活動センターの取り組み並びにセンター同士が連携する仕組みである集落活動センターゆすはら連絡協議会の取り組みを支援するとともに、これまで地域のサポート役として配置しておりました「ゆすはら応援隊」の仕組みから、集落活動センターの一員として継続的に雇用し、より地域と一体となって主体的に活動を行う「集落支援員」の仕組みに完全移行し、人材育成と財源確保及び経営の安定化に向けて、積極的に支援してまいります。

三つ目「保健・医療・福祉・介護の充実したまち」づくりについては、町民の「一生梶原で過ごしたい」の思いに応えるために、地域共生社会の実現に向け、地域課題の解決力の強化を図り、皆が世代や分野を超えて地域が丸ごとつ

ながることで包括的な支援を強化していくとともに、専門的な人材の機能を強化し、最大限に活用していくことで、住民一人ひとりの暮らしと生きがいを創出し、安心して一生を梶原で過ごしていただきたいと考えております。

四つ目「生きものにやさしい低炭素なまち」づくりについては、四国カルスト台地に設置することについて調査検討を重ねてまいりました1基2、000kWの風力発電施設の建設に向けた取り組みといたしまして、本年度から実施設計に着手することとし、本格的な行動を開始してまいります。

また、小水力発電やバイオマス発電についても、町内資源の十分な活用の検討を行うとともに、太陽光発電や給湯器等の推進を図り「環境モデル都市」として、2050年の目標である自然再生エネルギー自給率100%を目指してまいります。

五つ目「自信あふれる梶原人を育てるまち」づくりについては、近年、梶原中学校から梶原高等学校への進学率が上昇しております。このことは、地域を舞台に活



「雲の上の図書館」来館者10万人突破

躍する梶原高等学校の生徒への憧れとともに、その卒業時の安定した進路にあると考えております。本町の最高学府である梶原高等学校の更なる活躍のため支援を行ってまいります。

また、「雲の上の図書館」が本町の教育の中心となり、住民一人ひとりが、自己の人格を磨き、豊かな人生を送ることができるよう、その生涯にわたって、いつでも、どこでも、誰でも、楽しく学ぶことができる場づくりに取り組んでまいります。

六つ目「移住・定住対策について」であります。



梶原移住定住対策

取り組みを始め数年が経過し、一時期の人口増加とまでは至りませんが、確実に移住者の皆様が梶原町を選んでいただいている事に変わりはなく、人口減少幅の縮小に繋がっていると感じております。

このことは、空き家改修・住宅整備支援、雇用の場の確保等の条件整備を図るとともに、全国各地へ出向き、自然環境の良さや本町の取り組みでいる移住定住の諸施策のPR活動といった熱意や移住定住コーディネーターを総合窓口、移住者をサポートする16名の「くらすう梶原でサポート町民会議」と連携を図りながら取り組んでいる安心感が伝わっているこ

との現れだと思っております。今後も引き続き、受け皿づくりと切れ目のない相談体制の充実に向けて取り組んでまいります。

また、実際に有効である定住施策の一つとして、子育て支援があげられ、移住されてこられた方々だけでなく住民の定住につながる子育て支援策について「ゆすはら子育て世代包括支援センター」を中心に充実させてまいります。その結果として出生数が増えるといった、社会増からつながる自然増を目指した取り組みにより、人口減少に立ち向かってまいります。

### 【「対話と満足度」を高める役場がある社会づくり】

そうした中で、国、県に大きく財源を依存している本町においては、限られた財源で梶原町の地域社会と住民の思いを達成し、いかに生きるか、その生きる仕組みづくりを形にしていかななくてはなりません。

また、様々な情報と資源を効果的に活用しなければなりません。職員皆で心一つにし、全ての事業を町民の皆様をはじめ、多様な関係者と「信頼」の人間関係でのつ

なかりをもつて進めてまいります。

そのためにも、私たちは原点にたちかえり「見る」「聞く」「知る」「思う」「生かす」といった基本を大切に、大きく変化する社会を、考えるだけでなく考え続けることで生き抜き、変化に対応する力を身に付け、「話が来る、そこからいろいろな話が次々湧いてくる」話来湧く（ワクワク）する役場職員となつて町民の皆様とともに生き、ともに暮らし「幸福感」につつまれた社会をめざし、昨年について「信頼」と「和」の二つの言葉を職員との目標とし取り組みてまいります。

昨年も申し上げましたが、私が常に思い描くのは、「町民一人ひとりがそれぞれの生きがいと幸福感を感じながら安心して安全に暮らすことのできる町」、「穏やかな風通しの良い、笑顔のあふれる町」そしてそんな町で、子どもたちが、青年が、大人たちが、高齢者が幸福に暮らす、昔はどこでも見ることのできた風景でございます。

冒頭でも申し上げましたように社会は、恐ろしいスピードで進んでおります。

未来を担う梶原の子どもたちが

そうした変化に遅れることのないように教育環境を整えながら、0と1で割り切ることのできない隙間を埋めていける人間力を持った人材として成長してほしいと考えております。

延喜13年、京を追われ伊予の国、河野家の預かりの身となりながらも、自分の居場所を探すために河野氏により手勢と兵糧の支援をうけ、この梶原の地に根をおろし、多くの人々に愛された藤原経高公や共にこの地を拓き今日の梶原の基礎を築いてこられた先人のDNAが子々孫々へとつながっていく中で、先人たちの歴史に学び、再び「ゆすはら」を取り巻く「人」を大切に、町内外の梶原を支えてくれる人との関係を深く強く築きながら、0と1の隙間を埋め、人類社会の課題を解決する子どもたちが健やかに育つ理想郷梶原を目指して職員とともに取り組んでまいります。

私にとりまして、本年は任期2年目となりました。自分の思い描いている梶原の姿の創造へ向けて1年目で得た知識を知恵として挑戦し続けてまいります。

# 梶原町の組織機構及び職員配置表

H31.4.1 現在



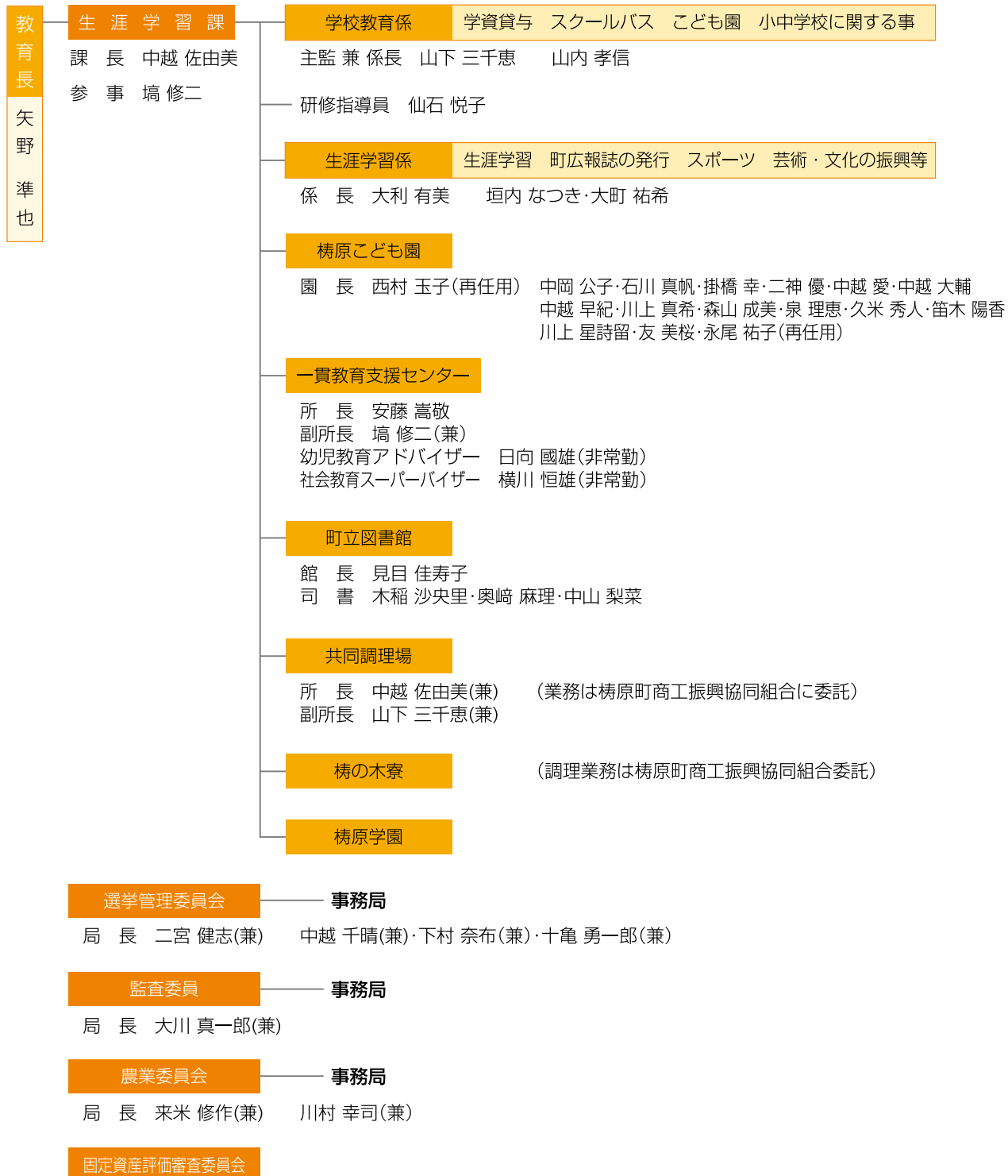
# 保健福祉支援センター・栲原病院組織機構及び職員配置表

H31.4.1 現在



# 教育委員会等組織機構及び職員配置表

H31.4.1 現在



## 退職者・転任者等

平成31年3月31日付けで、下記の方が退職・転任されました。

- 退職者・転任者等**
- 久保 栄八 (副町長)
  - 川田 忠久 (生涯学習課長)
  - 新田 琳 (企画財政課まち・ひと・しごと創生総合戦略推進室)
  - 中越 祝子 (栲原病院看護師)
  - 宗円 幸子 (栲原病院医師)
  - 西村 玉子 (栲原こども園園長)
  - 林 克晋 (生涯学習課参事 兼 一貫教育支援センター副所長)
  - 西森 史 (保健福祉支援センター地域包括支援センター係)
  - 佐々木 紫織 (栲原病院医師)
  - 入吉 宏紀 (栲原病院医師)

# 春の人事異動

梶原学園 小学校の部			梶原学園 中学校の部			梶原高等学校		
転入	教諭	白木 佐奈 (新居小学校より)	転入	教頭	林 克晋 (梶原町教育委員会より)	転入	校長	岡田 圭司 (高知南高校より)
	”	植村 憲史 (採用)		教諭	熊岡 璃星 (採用)		教諭	細木 建男 (須崎高校より)
	事務	植田 恭平 (採用)		”	松原 朋香 (採用)		”	次田 由梨 (中村高校より)
	講師	北代 優太 (新荘小学校より)		講師	森田 啓 (一宮中学校より)		”	渡辺 智子 (採用)
転出	教諭	中城 真妃 (窪川小学校へ)	転出	教頭	網藤 裕志 (土佐山学舎へ)	転出	”	吉松 望 (採用)
	事務	竹本 佳代 (高岡中学校へ)		講師	松本 浩明		実習助手	西川 知良 (幡多農業高校より)
	講師	山上 剛史 (山田小学校採用)		講師	大原 惟		講師	橋村 大志
	講師	市川 実季		講師	楠瀬 沙野		”	溝渕 康介
県職員等								
転入 転出	梶原駐在所 所長	高橋 宜裕 (中村警察署上川口駐在所より)						
	梶原駐在所 所長	吉川 成 (高知県東警察署本山警察庁舎へ)						

## 平成31年度 梶原町森林組合 通常総代会開催

3月26日(火)、平成31年度通常総代会を地域活力センターで開催し、全議案が提案どおり承認されました。

### 【組合長挨拶の要旨】

平成30年度は、年当初からの気象の悪条件により林産現場からの原木供給が販売加工事業必要量を提供できず、また猛暑による稼働状況の悪化も生じ労働生産性を圧迫し、経営状況も厳しいものになりました。しかしそのような状況の中で、



2020年東京五輪・パラリンピックの主会場となる新国立競技場整備事業について、競技場外周の軒庇部分にナイース株式会社様を通じて梶原町森林組合が高知県産のスギ材を供給させていただくことができました。わずかな量ではありますがFSC森林認証材がオリンピックという世界的スポーツを通じて世の中に流通しましたことは、この認証に関わっていただいた関係者皆様のご理解とご協力のおかげであります。そして今回の発注元でありますナイス株式会社様と建築家隈研吾氏との連名で森林認証材利用の実施事業体に向けて感謝状を載せております。

平成31年度については、今年度創設されました「森林の文化創造推進室」の取り組みにおいて、将来を見据えたゆすはら林業の方向を行政とともに考え、情報や実績を共有し、ゆすはら版の新たな森林管理システムによる集約化施業での間伐や皆伐による木材の増産、そしてFSCブラン

ドを活用した販売事業の強化・拡大を進めてまいります。本年度も「チーム森林組合」として役員一致結束して事業を推進してまいりますので、組合員を始め関係者機関の皆様のご指導ご協力を賜りますようお願い申し上げます。



代表理事	組合長	森山 真二
理事	下村 繁男	
理事	山口 敏	
理事	竹倉 茂一	
理事	上田 和弘	
代理	久岡 國雄	
代表	中平 俊一	
監事	山本 浩辰	
監事	片岡 幸作	

# 梶原学園だより VOL.82

## 梶原学園 卒業証書授与式

### 【巣立ちの春】

小中一貫教育校梶原学園の卒業式が行われ、卒業生が巣立っていきました。式ではたくさんのお客様、来賓・関係者の方々をお迎えし、厳かな雰囲気の中で、校長先生より一人ひとりが卒業証書をいただきました。



卒業する9年生



卒業証書を授与される6年生

有してきました。6年生は小学校のリーダーとして、9年生は学園のリーダーとして、梶原学園を立派に導いてくれました。小中合同の運動会・ウエルカムコンサート・読み聞かせ・学習発表会など、それぞれの思いを胸に4月からは、新たな中学校生活・高校生活が始まります。ぜひ、これまで学んだことを生かして頑張ってくださいと願っています。

## 2分の1成人式(4年生)

3月2日(木)、4年生の2分の1成人式を行いました。子どもたちが成人の2分の1にあたる10歳を迎えたことを記念して行う行事です。子どもたちが生まれてからの10年間を振り返り、保護者や家族にあてた感謝の手紙を読みました。手紙を読む中で、感極まって涙ぐんでしまう子どもたちの姿に、保護者も教員も感涙しました。保護者の方からも子どもたちにそれぞれ手紙を渡しました。子どもたちの気持ちや思いを、保護者の思いを伝えたりと、保護者と子どもたちが意思を疎通する機会になり、感動的な式になりました。



## 離任式

3月22日(金)に平成31年の人事異動で梶原学園を去られる教職員の離任式が行われました。学園の在校生だけでなく、卒業生も参加して行われた式では、児童生徒会から、心を込めたお礼の言葉とともに、最後のお別れをしました。

児童生徒と過ごした学園での日々を、忘れることなく、新しい赴任校でも今まで同様にご活躍されることと思います。今までありがとうございました。



一部の記事はホームページでも見ることができます。  
(<http://www.yusunharagakuen.jp/>)



# 栲原こども園だより



## そらいろ人形劇

3月1日(金)、そらいろ人形劇場による人形劇の上演がありました。今年は「にこにこさん」と「ききみみずきん」の2つを上演していただきました。

どの子もじっと見入って、指を指したり、お話の中に入りこみ、劇中のネズミが木に登る時に「がんばれー」と声を出して応援したりする姿もありました。頭巾を被ると言葉をしやべらないものたちの



声が聞こえる、というお話を子どもたちは理解して、動物の動きや言葉をしっかりと見て聞いていました。

生の人形劇の迫力や楽しさ、面白さを感じ、豊かな感性が養われたと思います。

## お別れ会

3月8日(金)、ぞう組さんのお別れ会を行いました。ぞう組からぱんだ組が縦割り班に分かれて行動しました。ラジオ塔まで出かけ、広場で触れ合いゲームをしての



びのびと遊びました。ホールでのお別れ会ではきりん組が司会をして進めてくれ、ぞう組が一人ひとりこども園で楽しかったことを発表したり、みんなで歌や踊りを踊ったりして楽しみました。また、それぞれが「ありがとう」の気持ちで作ったプレゼントの交換をして喜び合いました。給食やおやつもグループで机を囲み一緒に食べながら、おしゃべりしたりお世話をしてもらったりして1日を楽しく過ごしました。

## 卒園式

3月22日(金)、暖かな春らしい日差しが降り注ぐ中、卒園式を行いました。卒園児26名全員が出席することができ、保護者のみなさんや来賓の方々に見守っていただく中、「1年生になったら勉強をがんばります」「大きくなったら警察官になりたいです」などと自分の思いを発表して証書を受け取ることができ、



園生活で大きく成長した姿を見せてくれました。

YURURUの方々、手作りのお花を持ってお祝いに駆けつけてくださいました。この1年、行事の司会や小さい子のお世話など、様々なことで園の中心となり引っ張ってくれたぞう組さん。こども園で経験したことや学んだことを糧に、小学校生活でも元気に頑張ってもらいたいと思います。

一部の記事はホームページでも見ることができます。

(<http://www.yusuharakodomo.jp/>)



### 梶原町風力発電事業の状況についてお知らせ

日ごろは、新エネルギー等活用施設の設置事業にご理解、ご協力をいただき誠にありがとうございます。

今回は、10月号でお知らせいたしました後の風力発電事業の状況についてお知らせいたします。

11月26日に四国カルスト台地への1基、2、000kwの風力発電施設設置事業の実施について四電エンジニアリング(株)と実施協定を締結し、風況調査のためのタワーの製作・設置工事を行いました。

風況調査のためのタワーは、高



さが約60mの鉄塔形状で既設風車2基のほぼ中間に建っており、約1年間風況を観測する予定です。今年度は、風況調査等の調査や風力発電施設の設計を行う予定としております。

しばらくの間、風力発電施設の建設のため四国カルスト台地において関係車両の通行や風況観測タワーなどの設置により、皆様にはご不便をおかけいたしますが、ご理解とご協力をお願いいたします。

#### 【問合せ先】

環境整備課 環境推進係

☎ 65・1251

### 四万十街道ひなまつり ハーモニカコンサート開催

3月31日(日)に、集落活動センターゆすはら東(旧若草保育所)でハーモニカコンサートが開催されました。

これは、四万十街道ひなまつりにあわせて開催されたもので、当日は40名を超える方々が、橋ハーモニカクラブ(代表 橋尚之さん)による演奏を楽しみました。

同会場では、梶原こども園の園



▲ハーモニカコンサートの様子



お雛様展示会場の様子

児たちが作ったお雛様や、地元の人たちによる瓦に描いたお雛様なども展示されており、訪れた方からは、「かわいいねえ」「上手に作ってるねえ」との声が聞かれました。

#### 梶原町老人クラブ女性部

### 民事訴訟和解の報告

平成26年12月に自死した職員の訴訟について、14回の公判を重ね、昨年12月に裁判長から和解の提案

を受け、双方が和解に応じることとなり、4回の和解協議の後、裁判所から勧告を受けて平成31年3月4日に和解が成立しました。

#### 〈和解の内容〉

- ① 謝罪
- ② 再発防止策を講じること
- ③ 和解金4千万円

なお、今回の事案を受け、梶原町役場が町民の皆様から信頼される、より良い組織となるため、平成27年11月24日に第三者委員会を組織し、職員アンケートや幹部職員への聞き取り調査をはじめ13回にわたる協議検討の結果として答申をいただきます、

- ① メンタルヘルスの相談体制の拡充
  - ② 社会保険労務士への労務管理指導委託
  - ③ 働き方改革法実施への対応
- などを実施または実施予定としていきます。

町民の皆様には、不安とご迷惑をお掛けしましたことに対しまして、心よりお詫び申し上げますとともに、再発防止に向けて不断の努力を行います。

梶原町長 吉田尚人

## 健康文化の里づくり 推進員全体研修



3月9日(土)に、「健康文化の里づくり推進員全体研修会」を開催しました。  
今年度の各地区の総合健診等活動の振り返りや各地区で来年度の計画について話し合いを行い、発表をしました。

講演は「血管のためにできること」とし、岡田万菜実健康運動指導士と保健福祉支援センターの中村早苗管理栄養士からそれぞれ講演をいただきました。中村管理栄養士からは、梶原町民の血液検査の結果、血糖値

(HbA1c)が高く、糖尿病になるリスクが高いこと、血糖値が上がりにくい食事の仕方などの話を聞きました。岡田健康運動指導士は、いつまでも動けるからだけでなく、運動をみんなと実際行い、楽しい汗をかきました。

「この動きはきついね」「これならできるかも」などそれぞれ健康づくりのヒントを持ち帰ることができたのではないでしょうか？これからの健康づくりにぜひ生かしていただきたいと思えます。

11期生皆さんの活動もあと1年となりました。来年度もよろしくお願いいたします。



## 災害と人権

平成23年3月11日に発生した東日本大震災から8年が経過しました。

災害には、地震災害や台風などによる風水害や地震災害などがあり、災害が発生したとき、周囲の人との助け合いや、お互いへの思いやりが大切となります。

しかし、非常時にお互いの人権を尊重するためには、たくさんの課題があります。災害が発生したとき、さまざまな場面で支援が必要な方がいます。通常の生活では感じるのではない不安やストレスを感じるため、周りを思いやる余裕がなくなる可能性があります。その結果、高齢者、障がい者、女性、子ども、病気の人、妊婦、外国人といった立場の人に、人権侵害が起りやすい可能性があります。

日ごろから、思いやりの心を大切に、周りの人との人間関係や支えあいを大切に、周りに配慮や支援が必要な方がいないか考えておくことが大切です。

〔高齢者〕 瞬時の判断や行動が難しく、災害時に速やかな行動が難しい。避難所生活では、段差や和式トイレがストレスとなる場合があります。

〔障がい者〕 視覚障害や聴覚障害など、障害の状況によって異なりますが、高齢者の方と同様、災害時に思うように行動できない方もいます。目に見える障害だけでなく、見ただけでは分からない障害があることを理解することが大切です。

〔女性〕 避難所では、プライバシーの保護や衛生面、特に妊産婦への配慮が欠ける場合があります。授乳スペースや育児スペースが確保されにくく、乳幼児の夜泣きが原因で避難所に居づらくなる場合があります。

〔子ども〕 避難所生活のストレスで精神的に不安定になったり、子どもに対しての暴力が発生する場合があります。

〔外国人〕 日本語にも不慣れな外国人もいて、災害発生時に状況が把握できず、混乱してしまうことも考えられます。適切に情報が伝わる配慮が必要です。

梶原町人権教育研究協議会  
梶原町人権擁護委員

# 三笑会 第2回 障がい者福祉大会

## だれもが笑顔で暮らせるまち〜障がい者の暮らしを語ろう〜



3月10日(日)、梶原町三障害者団体協議会(略称『三笑会』)の主催で「三笑会 第2回障がい者福祉大会」を、ゆすはら・夢未来館で開催しました。

第1部はオープニングセレモニーとして、障害者支援施設梶原みどりの家の入所者の、網本カツミさんと杉村志津香さんによる絵本『だいじょうぶ だいじょうぶ』の朗読が行われました。

感情がこもった声の語り口と、登場人物の「だいじょうぶ」の言葉に込められた優しい思いやりを感じることでできる心温まる物語に、参加者の皆さんは熱心に聴き入っていました。

その後、梶原町三障害者団体協議会高橋正知会長の挨拶があり、来賓の吉田尚人町長と須崎福祉保健所上岡啓二所長より祝辞をいただきました。

続いて、「私の暮らし」として、就労継続支援A型事業所『ほほえみ』の立道涼司さん、梶原町役場臨時職員の中越真由美さん、地域活動支援センター『あおぞら』による意見発表があり、自分の持つ

障害の話や、自立に向けて自らが取り組んだこと、『あおぞら』の活動を通して頑張ってきたことや楽しかったこと、思いや体験を聞くことができました。

第2部では、梶原こども園園児による、『パプリカ』の元気なダンスと歌に、会場の参加者から温かい拍手が送られました。

パネルディスカッションでは、パネラーの方々による障害についての話や、今までの経験や考え方、よつば会の活動内容等をお話いただき、障害があることでの生活のしづらさや、今後の梶原町に求めるもの等、障害のある方のこれからの梶原町での生活について、活発な意見交換がなされました。

会の最後には梶原学園の生徒による『365日の紙飛行機』と『今日の日はさようなら』の合唱で、参加者も一緒に口ずさみ、会場に一体感が生まれました。

今回の大会を終えて、「みんなで生活について考える良い機会だった」「みんなが笑顔で暮らせる町になってほしい」「もっと障

害について知りたい」といった声がありました。誰もが笑顔で暮らせるまち、障害のある人もない人も共に地域で暮らすことが当たり前という感覚を育てることができ、貴重な機会となりました。

「障がい者を知ってもらうことで、障がい者の暮らしを少しでも考えるきっかけになれば」との思いで開催した、第2回障がい者福祉大会、当日は天候が悪い中でしたが、たくさんの皆様にお越しいただき、ありがとうございました。

そして、意見発表やパネルディスカッションに出てくれた皆様、絵本の朗読や歌やダンスで盛り上げてくれた、梶原みどりの家、梶原こども園、梶原学園、よつば会や梶原高校のボランティア、就労継続支援B型事業所梶原竹ぼうきの会、出店してくださった作業所『里楽』と就労支援センター『らいふ』、最後に、記述式アンケートにもかかわらず、たくさんのご意見、ご感想をくださった皆様、三笑会にとつて大きな励みとなります。

梶原町三障害者団体協議会  
高橋正知・宮本友和・長山久美子



こども園園児によるダンス



パネルディスカッションの様子  
(左から立道涼司さん・中越真由美さん・中越緑さん)

# 皆で楽しく 運動を始めよう



4月になり、暖かい日が増え  
てきましたが、皆さんいかがお  
過ごしでしょうか。農作業を始  
めるなど、日々の生活の中で外  
に出る機会もだんだんと増えて  
きているのではないのでしょうか。

暖かくなってきた、外に出る  
ことも多くなるこの時期に、運  
動を始めませんか。

## 運動するとどんないいことがある？

- 肥満、高血圧や糖尿病などの生活習慣病やメタボリックシンドロームの予防
- 健康的な体型の維持
- 体力、筋力の維持や向上
- 心肺機能の向上により、疲れにくくなる
- 腰やひざの痛みの軽減
- 血行が良くなり肩こり、冷え性の改善になる
- 抵抗力を高める（風邪の予防）など

## おすすめの運動は？

ランニングやウォーキング、水泳など、酸素をたくさん使う運動がおすすめです。

## 一回の運動量は？

- 酸素を十分に取り込みながら、10〜20分以上行う運動を
  - 毎日続けましょう。
- 高血圧などと指摘されている

方は状態によっていきなり運動を始めると危険な場合があります。必ず医師に相談してから、始めるようにしましょう。

## 運動の強さは？

中等度の運動が望ましい運動の強さだと言われています。

- 「ややきつい」と感じる
- 「汗をかくが、会話ができる」位の運動をしてみましょう。

## 運動量を増やすための一工夫！

### 1、体を使って運動量を増やすことを心掛ける

まずは、歩くことを基本にして、運動量を増やす意識を持ちましょう。

一日当たりの目標歩行数8千歩から1万歩を目標にウォーキングをしてみましょう。とは言っても、いきなり目標を決め、それを毎日続けることはなかなか難しいかもしれません。そんな時には、まずは10分多く身体を動かすことから始めてみましょう。10分多く動くと言うことは今より約千歩多く歩くと言うことになります。

### 〈ウォーキングのポイント〉

- ①頭はまっすぐ顎を引く
- ②胸を張って背筋を伸ばす

③肘は直角に曲げ、大きく前後に振る

④足首は直角に曲げ、かかとから着地する

⑤後ろ足は膝を伸ばし、つま先で地面を蹴る

ウォーキングを行う際はこれらに注意して行ってみてください。

### 2、ちょっとした工夫や心掛けて日常生活の運動量を増やす

日常生活の中で、意識してなくても運動をしていることがあります。例えば、立っていることだけでも運動になっていきます。そのような「意識していない運動」を行っていないか、自分の生活習慣を振り返り、続けていきましょう。

### 〈意識していない運動って？〉

- エレベータを使用せずに、階段を利用する
- 買い物カートではなく買い物かごを持つ
- 窓ふきや風呂掃除などをこまめに行う
- テレビを観ながら、筋トレ・ストレッチを行う

健康のために運動が大切と言われても、どんな運動をすればよいか迷う人もいるかもしれません。運動に苦手意識を持つていたり、忙しくて運動する時間

を取ることが難しかったりする場合は、まずは10分多く体を動かす、身体の活動量を増やすことから始めてみましょう。

高知県では「健康パスポート」を発行しています。運動などを行い、シールを集めてお得な特典を受けられるパスポートです。梶原町でも発行していますので興味のある方は、ぜひ、梶原町保健福祉支援センター健康増進係  
(☎65・1170)までお問い合わせください。

## 人権啓発人形劇

3月1日（金）、梶原こども園において、人権啓発のための人形劇が上演されました。

幼いころから人を思いやる優しい心・命を大切にすることを対してもらおうと毎年、乳幼児を対象に実施しています。

今年の演目は「ききみみずきん」です。子どもたちは、劇が始まると、話に釘づけで物語に出てくる動物や植物、おじいさんに掛け声をかけたり声援を送ったり夢中になっていました。子どもたちには「人権」という言葉は難しいですが、人形劇をおして豊かな心・想像力が育つてくれることを願います。

梶原町人権教育研究協議会  
梶原町人権擁護委員

「福祉サービスで悩んだり、困ったりしていることはありませんか？」

各種社会福祉施設（老人ホームや就労継続支援事業所、保育所等）やホームヘルプサービスといった福祉サービス利用についての疑問や悩み等の困りごとは、その事業者との話し合いでの解決が望まれます。

しかし、話し合いだけでは解決しなかったり、直接話すことに抵抗を感じたりする場合もあると思います。

そのような時には「福祉サービス困りごと解決委員会」にご相談ください。秘密厳守で対応させていただきます。

相談は無料で、受付は年末年始を除いた平日の午前9時から午後4時までです。

【問合せ先】

〒780・8567  
高知市朝倉戊375番地1  
高知県立ふくし交流プラザ  
高知県運営適正化委員会  
(福祉サービス困りごと解決委員会)  
☎088・802・2611  
FAX088・844・9443  
✉kaiketsu@pippikochi.or.jp  
(FAXメールは24時間受付)

平成31年度の国民健康保険税率が変わります

国民健康保険は、病気やけがをしたときに安心して医療が受けられるように、加入者が国民健康保険税を出し合い、お互いに助け合う制度です。我が国の国民皆保険制度を支える医療保険であり、将来にわたり安定的に運営していく必要があります。

区分		改正前	改正後
		平成30年度	平成31年度
医療保険分	所得割	7.5%	8.3%
	資産割	—	—
	均等割(人数)	19,100円	24,100円
	平等割(世帯)	13,400円	16,200円
後期高齢者支援金分	所得割	2.4%	2.7%
	資産割	—	—
	均等割(人数)	6,300円	7,900円
	平等割(世帯)	4,400円	5,300円
介護保険分	所得割	1.4%	1.7%
	資産割	—	—
	均等割(人数)	5,000円	7,000円
	平等割(世帯)	2,500円	3,400円

国民健康保険制度について  
これまで市町村が個別に給付費を推計し保険料負担額を決定していました。平成30年4月1日に国民健康保険制度の見直しが行われ、高知県が県内の市町村ごとの医療費水準や所得水準に応じて標準保険料率や国保事業費納付金の額を決定し、これを基に市町村が保険料負担額を決め、保険税を賦課・徴収するよう変更されました。

■保険税率の変更

本町では加入する皆さんの保険税の負担が大きくなるように、国民健康保険財政調整基金（以下「財政調整基金」という。）を取り崩しながら対応してきましたが、被保険者が減少する中、高度医療技術の進歩などに伴い医療費が増えており、今後増加が見込まれる厳しい財政状況となっていました。

こうしたことは、高知県内の多くの市町村の課題でもあり、本町も高知県から示された国保事業費納付金に基づき、平成30年度の保

険税より残りの財政調整基金を取り崩しながら段階的に税率を改定していくこととなり、平成31年においても税率の改定を行うこととなりました。  
加入者の皆さんにご負担をおかけすることになりますが、ご理解とご協力をお願いします。

- (1) 0歳～39歳／国保税Ⅱ医療保険分＋後期高齢者支援金分
- (2) 40歳～64歳／国保税Ⅱ医療保険分＋後期高齢者支援金分＋介護保険分
- (3) 65歳～74歳／国保税Ⅱ医療保険分＋後期高齢者支援金分（介護分は介護保険料で納めます）

■保険税の軽減措置について

これまでどおり、所得が一定額以下の世帯には、国民健康保険税の負担の軽減を図るため均等割額、平等割額の軽減があります。（所得申告がされていない場合は、軽減の対象となりません。）

【問合せ先】

制度について…  
保健福祉支援センター医療保険係  
☎65・1170  
国保税について…  
梶原町役場  
総務課 税務係  
☎65・1111

こんなけしを見つけたら  
福祉保健所まで連絡を！

けしの仲間には、通常4月から6月にかけて美しい大きな花を咲かせますが、その一部には、法律で栽培が禁止されているものがあり、誤って庭先などに植えられていることがあります。

自生しているところを見かけたり、お心当たりのある方は、勝手に抜かず、須崎福祉保健所までご連絡をお願いいたします。

【連絡先】

須崎福祉保健所 衛生環境課

☎0889・42・2004

不正けしの特徴

花びらは一重のものや、八重のものなど様々ある  
赤、薄紫、白、桃などの色がある  
葉は互い違いに茎につき、**茎を抱き込むような形**  
葉や茎にほとんど毛がない



小学生～高校生のための夏休み  
海外研修交流事業 参加募集

公益財団法人・国際青少年研修協会では、9コースの参加者を募集しています。体験をとおして、お互いの理解や交流を深め、国際性を養うことを目的に実施します。おひとりご参加の方が7割以上で、はじめて海外へ行く方が多く、全国から参加する友達との出会いも楽しみのひとつです。仲間づくりのサポートがありますので、安心してご参加いただけます。

【内容】

ホームステイ・ボランティア・文化交流・学校体験・英語研修・地域見学・野外活動など

【研修先】

イギリス・オーストラリア・カナダ・シンガポール・フィジー

【日程】

7月26日(金)～8月20日(火)のうち、8～18日間  
※コースにより異なる

【対象】

小3から高3の方まで

※コースにより異なる

【説明会】

全国10都市、5月  
※入場無料・予約不要

【締切】

5月24日(金) および6月7日(金)  
※コースにより異なる

【問合せ先・資料請求】

公益財団法人 国際青少年研修協会  
〒141-0031  
東京都品川区西五反田7-15-4  
☎03・6417・9721  
FAX03・6417・9724  
✉info@kskk.or.jp  
(http://www.kskk.or.jp)



高知県中小企業耐震診断等支援事業費補助金のご案内

高知県では、南海トラフ地震対策として、従業員の命を守るとともに地震発生後の早期復旧につなげるため、県内中小企業者が行う耐震診断や耐震設計などに要する費用を一部助成する補助制度を設けていますので、ご活用ください。

1 対象者

県内で製造業を営む中小企業者であって、BCPを策定している者

2 対象事業

- ①耐震診断
- ②耐震設計（建替設計を含む）

3 対象建築物

事務所・工場等で昭和56年5月31日以前に建築された建築物であること

4 補助率／補助限度額

- ①耐震診断：2/3以内／133.3万円
- ②耐震設計：2/3以内／200万円

5 補助要件

耐震診断及び耐震設計の内容に関し、四国耐震診断評定委員会等の評定を受け、適切と評価を受けること等



お問合せ先

高知県商工労働部商工政策課事業推進担当  
電話 088-823-9692

## 5月の行事予定

8日(水)	中学校修学旅行(11日まで) 8年生職業体験(11日まで)	15日(水)	小学校修学旅行(17日まで) 行政相談
11日(土)	春の交通安全運動(20日まで) 栲原高校PTA総会 環境整備デイ	18日(土)	高吾地区中央支部体育大会(20日まで)
12日(日)	第31回町長杯争奪ゲートボール大会 森林ボランティア	20日(月)	栲原町交通安全の日
14日(火)	小児健診	22日(水)	第21回栲原町雲の上杯ゲートボール大会
		25日(土)	高知県高等学校体育大会(27日まで)
		26日(日)	西宮市鍼灸ボランティア
		31日(金)	栲原高校第1回キャリア教育講演会

## 5月の保健福祉支援センター行事予定

7日(火)	げらげら家族会	16日(木)	四万川宅老所
8日(水)	松原サテライトデイサービス	17日(金)	大向宅老所、東区いきいき
9日(木)	四万川宅老所、越知面デイサービス	22日(水)	あゆみの会
10日(金)	初瀬いきいき	23日(木)	四万川いきいき
14日(火)	小児健診	26日(日)	西宮市鍼灸ボランティア

毎週月曜日 育児サークル(図書館内子育てコーナー)午後1時～3時

※子育て中に限らず、どなたでも参加できます。お母さんだけ祖父母だけでもOK。ぜひ参加してください。お待ちしております。

毎週水曜日 予防接種(四種混合、麻疹・風疹【MR】、BCG、日本脳炎、子宮頸がん、ヒブ、小児肺炎球菌ワクチン、水ぼうそう、B型肝炎)

月曜日～金曜日 子育て世代包括支援センター(支援センター1階)

※妊娠や子育てに関する相談がありましたら、気軽においでください。(電話でも構いません。☎65-1170までお願いします。)

ゆすっこ相談センター相談日 7日(火)午後、21日(火)午後、28日(火)

川畑真理子心理カウンセラーの相談日(月2日) 28日(火)、29日(水)

※相談希望の方は、子育て世代包括支援センター☎65-1170までお願いします。



## 編集後記

「平成最後の・・・」というフレーズが多く聞かれた今年のスタートでした。

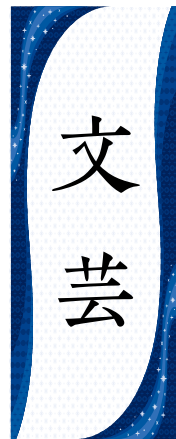
あらためて平成30年間を振り返る記事などを見ると、いろいろなことがあったものだと感慨深いものがありました。「平成」から「令和」へ、新しい元号が変わりました。「令和」には、「清らか」「まとまる」などの意味があるそうです。「令和」、まだしっくりきませんが、「平成」の時も同じようにしっくりきませんでした。「昭和」に慣れていましたから無理はありません。これから長い時間をかけて、少しずつなじんでいくのだと思います。

年号が変わっても大きく日常生活が変わるものはありませんが、人生に節目があるように、時代の区切りです。「令和」の時代が、戦争や災害のない穏やかな時代になってほしいものだと切に願います。

4月は新しい年度がスタートし、学校や職場には、不安や緊張をいだきつつも、希望や期待に胸を膨らませている人たちがいます。この人たち一人ひとりの思いを大切に、笑顔を絶やすことなく、いきいきと活躍できるように応援してあげたいものです。

人はそれぞれ個性があって、自分の思いをストレートに表現できる人もいれば、なかなか思いを言葉にできにくい人もいます。焦ることなくゆっくりと向かい合い、対応してあげることも周りの大人の役目ではないかなと思います。

5月は10連休もあります。せっかくなか慣れたかと思えば長い休み。5月病などならないように気を付けてあげましょう。



# 文芸

## 烏帽子俳句会

故里の味噌を置いて蜷汁  
ヒネ・バンビ

山吹や明るくなりし胸の内  
千光寺 昭子

つくしんぼ赤子の欠伸もらひけり  
宮崎 真由子

初音聞く留守居も楽し日曜日  
宇都宮由利子

土筆伸ぶ養豚場の鎮魂歌  
中越 律子

麦を踏み老いし祖らよ荒田守る  
瀬戸口登貴恵

がんばるは我を張ることと春の雨  
西村 智子

舗道にもつくしの坊や二つ三つ  
温地 あゆみ

風の電話吹いているのは春北風  
岩元 芙美

観光列車に菜花浮き立つ堤かな  
古野 節子

蜷搔く父の太股白きかな  
下元 澄子

彼岸桜はらりはらはら野の地蔵  
岩井 章子

## 杉の子俳句会

紙びなを折る指太し宅老所  
久岡 智子

歯の抜けたひ孫の笑顔ランドセル  
大崎みなと

懸命に一步踏み出す春天地  
氏原 陽子

猫柳芽ぐむ岸辺の瀬音かな  
西村 蓉子

ワンピースお下がりがだけど春の色  
明神伊佐子

春日傘くるくる廻し寺の門  
掛橋 初子

雛あられ爺によく似た孫の顔  
西村 幸枝

大架橋春の渦潮ど真ん中  
内野 純子

バーゲンのエスカレーター春の人  
下元 廣幸

菜の花や絵画教師のスポーツカー  
川田 早苗

被災家のシートをはがす春疾風  
影浦 鉄心

残る夢追いて春ゆく平成の  
野中 胤雄

## 柚子の木俳句会

疵愛す乙女椿や小鳥くる  
広瀬 みえ

菜の花や花咲か翁の在る如く  
西村由利子

## 学校応援団 (俳句教室)

手で払う枯れ草の中蔵立つ  
西森 誠子

流し雛老いたる母も見送りて  
中平 忠雄

麗らかな日に旅立つも友若し  
中越 郁子

朝未だき蔵の灰汁を抜きにけり  
渡辺 瑞枝

冷凍のわらび取出し玉子とじ  
中越 秋子

水切りにあがる歓声遊糸飛ぶ  
吉田 敬子

えんどうやジャック呼ぶごとと天目指し  
広瀬 卓雄

## 川柳

なのはなをにぎるとかふんがついたよ  
二年 西村倫汰朗

あたたかい雨だグラウンド水たまり  
四年 西村 日汰

しゃぼん玉大玉小玉おどつてる  
四年 福島 夢瑠

六年生とゾウ組花だんのチューリップ  
四年 坂本こうこ

## 狂歌

ちぐはぐな町の対応新聞覧れば  
法律顧問の無策と読める  
河野 哲夫

長寿国 あの手 この手の ロコモ策  
ふれ合で ロコトレ プラス 認知逃げ  
西村 美子 (二句掲載)

大家族 つっぱりひっぱり自主投票  
河野 哲夫

# 寄付のお礼

このほど、次の方々からご寄付をいただきました。町ではその趣旨を十分に尊重し、有効に活用させていただきます。紙面をもってお礼とご報告申し上げます。

### 【その他のご寄付】

- 上田 善啓 様 (仲洞)  
故・上田繁喜氏逝去に伴う香典返し (在宅福祉へ)
- 中越 祥恵 様 (上本村)  
故・中越幸敏氏逝去に伴う香典返し (社会福祉へ)
- 吉村 政子 様 (文丸)  
故・吉村岩重氏逝去に伴う香典返し (社会福祉へ)
- 西川 武雄 様 (宮野々)  
故・西川茂猪氏逝去に伴う香典返し (社会福祉へ)
- 西川 和一 様 (川口)  
故・西川松忠氏逝去に伴う香典返し (社会福祉へ)

### ●おくやみ

住所	死亡者名	性別	死亡年月日	年齢	世帯主
松谷	西村 恆壽	男	H31.2.26	66	本 人
下本村	竹村美代子	女	H31.3.13	77	竹村文雄
島中	久岡 豊子	女	H31.3.16	87	本 人
川口	西川 松恵	女	H31.3.18	95	西川和一
神在居	下元 貞幸	男	H31.3.29	85	本 人

### ●ご結婚

届出時の住所	夫婦氏名	婚姻日
飯母	夫 川上 瑛司	H31.3.28
飯母	妻 中越星詩留	

### ●おめでた

住所	出生者氏名	性別	出生年月日	保護者
下本村	川上 陽菜	女	H31.3.18	川上純弥

※個人情報につき掲載の了解をいただいた方を掲載しています